

和歌山県立医科大学大学院保健看護学研究科 博士前期課程

令和7年度入学試験（第2次募集）

専門科目 問題冊子

注 意 事 項

1. 受験番号と氏名を解答冊子の表紙の指定の場所に記入しなさい。
指定の場所以外に記入してある場合は、全答案を無効とします。
2. 解答は所定の解答欄に横書きで記述しなさい。
3. 問題冊子の最後にある下書き用紙は問題冊子から切り離しても構いません。
4. 提出するのは解答冊子だけです。問題冊子は持ち帰りなさい。

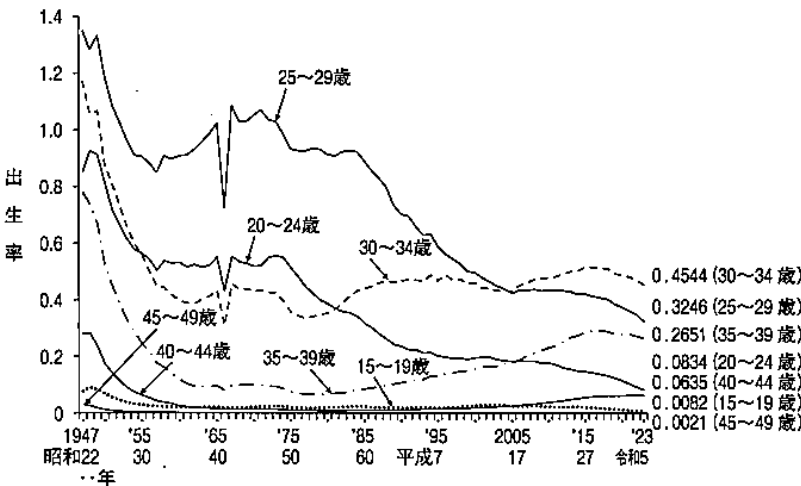
I. 資料は、「出生順位別出生数の構成割合（％）の推移」（表 1）と「母の年齢階級別出生率の推移」（図 1）である。この資料を用いて、以下の設問に答えなさい。

表 1 出生順位別出生数の構成割合（％）の推移

	出 生 数 ¹⁾	構 成 割 合 ²⁾ （％）			
		総 数	第 1 子	第 2 子	第 3 子～
昭和25年(1950)	2 337 507	100.0	27.2	28.0	44.8
35 ('60)	1 606 041	100.0	44.5	32.6	22.9
45 ('70)	1 934 239	100.0	45.4	39.0	15.6
55 ('80)	1 576 889	100.0	42.3	40.7	16.9
平成 2 ('90)	1 221 585	100.0	43.5	37.6	18.9
12 (2000)	1 190 547	100.0	49.0	36.5	14.5
22 ('10)	1 071 305	100.0	47.6	36.4	16.0
27 ('15)	1 005 721	100.0	47.5	36.1	16.3
令和 2 ('20)	840 835	100.0	46.7	36.2	17.2
4 ('22)	770 759	100.0	46.1	36.5	17.4
* 5 ('23)	727 277	100.0	46.6	36.6	16.8

資料 厚生労働省「人口動態統計」（*は概数である）
注 1) 昭和25・35年は出生順位不詳を含む。
2) 出生順位不詳を除いた出生数に対する構成割合である。

『国民衛生の動向 2024/2025』より引用



資料 厚生労働省「人口動態統計」（令和 5 年は概数である）
注 この図の年齢階級別の数値は、母の各歳別出生率を足しあげたもので、各階級の合計が合計特殊出生率である。なお、15歳と49歳には、14歳以下、50歳以上を含んでいる。

図 1 母の年齢階級別出生率の推移

『国民衛生の動向 2024/2025』より引用

- 問 1 表 1 から読み取れることを述べなさい。
- 問 2 図 1 を表 1 と関連づけて、読み取れることを述べなさい。

Ⅱ. 下記の設問に答えなさい

1. ある集団内でのコミュニケーション能力とその集団内の争いに関して関連を検討したいと考えました。

問1 この場合、どのグラフが適切かを以下の中から選び番号を記載しなさい。

- ① ヒストグラム
- ② 折れ線グラフ
- ③ 棒グラフ
- ④ 散布図
- ⑤ 円グラフ

問2 「コミュニケーション能力が高くなるほど、その集団内の争いは弱まる」と仮定した場合、「コミュニケーション能力」と「集団内の争い」をそれぞれ変数とした場合、予測される変数間の関連について述べなさい。

2. A病院とB病院に勤めている20代の看護師の給料（月給）の平均値は、A病院、B病院ともに20万円である。しかし、A病院の看護師30人、B病院看護師30人にアンケートをとった結果、B病院看護師の方がA病院看護師よりも給料に不満を持つ人が多かった。

問1 下記のA病院、B病院の20代の看護師の給料の表から、ヒストグラムを作成しなさい。

A病院(万円)	15	15	15	20	20	20	20	25	25	25	15	15	15	20	20	20	20	25	25	25	15	15	15	20	20	20	20	25	25	25
B病院(万円)	10	10	30	30	10	10	10	10	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	30	30	15	15	15	30	30	30	30	35	40	40

問2 B病院看護師の方がA病院看護師よりも給料に不満を持つ人が多い理由を述べなさい。

ⅢまたはⅣを選んで、回答してください。

がん看護専門看護師コースの方は、Ⅳを選んで回答してください。

Ⅲ. 文章を読んで、下記の質問に答えなさい。

著作権保護の観点から、問題のこの部分は掲載しません。

著作権保護の観点から、問題のこの部分は掲載しません。

アンデシュ・ハンセン著、久山葉子訳 「ストレス脳」 より

問1 著者が述べる、①祖先が命を奪われた疾患、②祖先のように暮らしていれば入院せずにすんだと思われる疾患、③祖先のように暮らしていれば入院せずにすんだと推測するのが困難な疾患について、それぞれ述べなさい。

問2 著者が述べる、狩猟採集民や部族に対する①調査結果、および②調査の問題点について、それぞれ述べなさい。

問3 「狩猟採集民」と「私たち」におけるうつの割合に、差異がみられる要因は何か。自身の考えを300字程度で述べなさい。

ⅢまたはⅣを選んで、回答してください。

がん看護専門看護師コースの方は、Ⅳを選んで回答してください。

Ⅳ.「がん教育」の在り方に関する検討会から、学校におけるがん教育の在り方について報告がされている。これについて、下記の設問に答えなさい。

問1 文章の空白①、②、③、④、⑤に入る言葉を選択語句から選びなさい。

学校におけるがん教育の在り方について（報告）

1 学校におけるがん教育を取り巻く状況

近年、都市化、少子高齢化、情報化、国際化などによる社会環境や生活環境の急激な変化は、国民の心身の健康にも大きな影響を与えており、ストレスによる心身の不調などのメンタルヘルスに関する課題、アレルギー疾患、感染症など、新たな課題が顕在化している。その中でも、生涯のうち国民の二人に一人がかかると推測されるがんは重要な課題であり、健康に関する国民の①として身に付けておくべきものとなりつつある。

また、がん対策基本法（平成 18 年法律第 98 号）の下、政府が策定したがん対策推進基本計画（平成 24 年 6 月）において、「子どもに対しては、健康と命の大切さについて学び、自らの健康を適切に管理し、がんに対する正しい知識とがん患者に対する正しい認識をもつよう教育することを目指し、5 年以内に、学校での教育の在り方を含め、健康教育全体の中で「がん」教育をどのようにするべきか検討し、検討結果に基づく教育活動の実施を目標とする」こととされている。

このようながん教育をめぐる状況を踏まえ、昨年度、公益財団法人日本学校保健会に検討会を設置（平成 25 年度文部科学省補助事業）し、がん教育の在り方等について検討してきたところであるが、更なる充実を図るため、平成 26 年度から国においても新たに「がんの教育総合支援事業」を立ち上げ、有識者による「がん教育」の在り方に関する検討会を設置するとともに、モデル校等で多様な取組を実施し、それらを踏まえつつ、今後のがん教育の推進に向けて検討することとした。

2 学校におけるがん教育の基本的な考え方

学校における健康教育は、②を通じて自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力を育成することを目指して実施されている。前述のようながんをめぐる状況を踏まえると、学校における健康教育においてがんを取り上げた教育を推進することは健康教育を推進する上で意義のあることであると考えられる。近年、疾病構造の変化や③など、児童生徒を取り巻く社会環境や生活環境が大きく変化してきており、健康教育もそれに対応したものであることが求められる。特に、日本人の死亡原因として最も多いがんについて、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深める教育は不十分であると指摘されている。学校教育を通じてがんについて学ぶことにより、健康に対する関心をもち、正しく理解し、適切な態度や行動をとることができるようになることが求められている。

以上の状況を踏まえ、学校においてがん教育を推進する際には、「健康と命（いのち）の大切さを育む」という視点で本報告書を参考とした取組が推進されることを期待する。

なお、「がん教育」は、がんをほかの疾病等と区別して④に扱うことが目的ではなく、がんを扱うことを通じて、ほかの様々な疾病の予防や望ましい生活習慣の確立等も含めた健康教育

そのものの充実を図るものでなければならない。また、例えば、専門家や患者・経験者の協力の下、地域の実情等に応じて、がん以外の様々な疾病や健康に関する問題等を通じて学ぶことも意義のあることであると考えられ、各学校・教育委員会等の主体的な取組が期待される。

また、取組の推進に当たって、今後は、更に国や地方公共団体における学校保健担当部局と地域保健担当部局の連携を強化していく必要がある。

(1) がん教育の定義

がん教育は、健康教育の一環として、がんについての正しい理解と、がん患者や家族などのがんと向き合う人々に対する共感的な理解を深めることを通して、自他の健康と命の大切さについて学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図る教育である。

(2) がん教育の目標

①がんについて正しく理解することができるようにする

がんが身近な病気であることや、がんの予防、早期発見・検診等について関心をもち、正しい知識を身に付け、適切に対処できる実践力を育成する。また、がんを通じて様々な病気についても理解を深め、健康の保持増進に資する。

②健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする

がんについて学ぶことや、がんと向き合う人々と触れ合うことを通じて、自他の健康と命の大切さに気付き、自己の在り方や(⑤)を考え、共に生きる社会づくりを目指す態度を育成する。

(選択語句)

あたりまえ 学び方 学生時代 基礎的教養 義務教育 高齢社会
死に方 少子化社会 人生 人生の目標 生き方 生涯
男女共同参画社会 特別 普通

問2 学校における「がん教育」の内容には、「がんとは(がんの要因等)」、「がんの種類とその経過」、「我が国のがんの状況」、「がんの予防」、「がんの早期発見・がん検診」、「がんの治療法」、「がん治療における緩和ケア」、「がん患者の生活の質」、「がん患者への理解と共生」が示されている。この内容をふまえ、「がん教育」をすすめる際の「留意点」について、600字以内で述べなさい。